

平成29年4月27日 厚生消防委員会資料

健康医療部医療事業課

## 市立奈良病院新改革プラン

平成29年3月

奈良市

## 目次

1	市立奈良病院新改革プランの策定について	・・・	1
2	市立奈良病院新改革プランの計画期間	・・・	1
3	病院の現状	・・・	2
4	地域医療構想を踏まえた役割の明確化	・・・	2
5	経営の効率化	・・・	5
6	再編・ネットワーク化	・・・	7
7	点検・評価・公表	・・・	7
	(別紙)本プラン対象期間中の各年度の収支計画等	・・・	8

## 1 市立奈良病院新改革プランの策定について

平成16年12月1日、本市は国立病院機構から旧国立奈良病院の経営譲渡を受け、市立奈良病院を開設しました。

「市民の安全安心を支える、信頼される病院」を基本的コンセプトとし、本市における中核的医療機関として、特に「救急医療」「小児科」「産婦人科」「地域連携」「がん医療」を中心に充実を図るとともに、市民の多様なニーズに対応しています。運営方法としましては、平成16年の開設当初から指定管理者制度を採用し、公益社団法人地域医療振興協会を指定しており、平成24年度からは利用料金制度を採用し、効率的な経営に努めています。

国においては、平成27年3月31日付け総務省自治財政局長通知により新公立病院改革ガイドラインが示され、平成28年3月に策定された奈良県地域医療構想を踏まえ、平成28年度中に新公立病院改革プランの策定に取り組むこととされています。

この市立奈良病院新改革プランは、市立奈良病院運営市民会議及び市立奈良病院等管理運営協議会を経て、新公立病院改革ガイドライン及び奈良県地域医療構想に基づき、市立奈良病院が地域において必要な医療提供体制を確保し、安定的に公立病院としての役割を担っていくことができるよう、策定したものです。

## 2 市立奈良病院新改革プランの計画期間

平成28年度から平成32年度までの期間を対象とします。

### 3 病院の現状

所在地	奈良市東紀寺町一丁目50番1号						
病床数	病床種別	一般	療養	精神	結核	感染症	計
		349				1	350
	一般・療養病床 の病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
		8	341			349	
診療科目	科目名	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、血液内科、心療内科、糖尿病内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科					

### 4 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

#### (1) 地域医療構想を踏まえた市立奈良病院の果たすべき役割

平成28年3月28日に策定された奈良県地域医療構想では、現在の5保健医療圏＝構想区域と設定され、市立奈良病院については奈良構想区と位置づけられています。また、この構想の中で4疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病）3事業（救急・周産期・小児救急）が設定されています。

市立奈良病院における現況の体制として、4疾病に関して、がんの医療体制は、平成20年度から地域がん診療連携拠点病院に指定されており、平成26年4月から緩和ケア科の院内標榜をし、平成30年には新リニアック棟整備が完了する予定をしております。脳卒中の医療体制は、平成27年6月から県内初となる24時間対応可能な脳卒中センターを設置しております。急性心筋梗塞の医療体制は、平成28年1月からはX線（レントゲン）やCT、超音波などの画像診断装置で体の中を透かして見ながら、細い医療器具（カテーテルや針）を入れて病気を治療するIVRについて大学と連携してIVR研究センターを設置しております。糖尿病の医療体制は、糖尿病内科において、入院症例の大多数を占めるのは、インスリン導入を含めた1型および2型糖尿病の教育入院です。また、平成28年1月から新たに糖尿病外来を担当できる常勤医師を確保しています。

3事業に関して、周産期医療の医療体制は、平成27年度の分娩は555件あり、産婦人科一次救急輪番病院として水・木・土曜日の週3回担当しています。小児救急医療の医療体制は、一般小児急性疾患、救急を中心に診療を行い、小児科二次救急輪番病院

として月10回程度担当しています。救急医療の医療体制は、24時間365日の救急受入体制整備、循環器・脳卒中24時間ホットライン体制導入、休日夜間応急診療所二次受入体制輪番病院、平成22年10月からは奈良市ドクターカーの運用開始をしており、奈良市合同ドクターカー症例検討会を月1回開催しています。

4疾病3事業においては、回復期・維持期の医療提供を除き、市立奈良病院が急性期病院として奈良構想区域の中で役割を担っており、奈良県地域医療構想に基づき、将来に渡っても現状どおりの役割を担っていかなければならないと考えています。

#### (2) 平成37年における市立奈良病院の具体的な将来像

奈良県地域医療構想における2025年の必要病床数からみて、奈良構想区域については、高度急性期病床の不足が予想されています。このことから、将来の事業戦略として、HCUを新たに設置するとともに、ICU・CCUの稼働病床を増床させ、現状より更に高度急性期医療を担うことを視野に入れています。また、構想区域での4疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病）3事業（救急・周産期・小児救急）における市立奈良病院の役割からみて、引き続き、急性期機能区分を中心とした医療を展開することを考えています。

#### (3) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

奈良県地域医療構想の中で2025年における居宅等での医療の必要量は、県全体で約53%増加する推計であり、奈良構想区域では50%以上の増加見込となっています。

また、在宅医療受療患者の疾患構成で上位を占めているのは、心疾患循環器系、消化器系、脳疾患循環器系、神経系、筋骨格系が多数を占めている現状です。このことを踏まえ、地域での切れ目のない医療提供体制の継続性を重視し、急変時と重症化時の対応のための入院病床を提供する医療機関として、24時間対応可能な体制の確保を引き続き行っていきます。

#### (4) 一般会計負担の考え方

現在、収益的収入においては、一般会計補助金として、病院管理に係わる担当課職員の人件費・事務費等を、一般会計負担金として、企業債の利息償還分を繰入れています。

また、資本的収入においては、一般会計負担金として、企業債の元金償還金の市負担分（交付税対象分）を繰入れています。なお、一部、建設改良費で病院事業債対象外の費用について繰入れています。

(5) 医療機能等指標に係る数値目標

1) 医療機能・医療品質に係るもの		26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	救急車搬送数 (人)	4,255	3,938	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	時間外患者数 (人)	6,438	6,312	6,400	6,400	6,400	6,400	6,400
	手術件数 (件)	4,348	4,612	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700
2) その他		26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	患者満足度 (%)	89.5	92.5	93	94	94	95	95

(6) 住民の理解のための取組

市民公開講座を開催するとともに、市立奈良病院の診療実績・臨床指標を平成25年度から病院のホームページにて公開しています。

また、市立奈良病院運営市民会議の議事録を市のホームページにて公開しています。

## 5 経営の効率化

### (1) 経営指標に係る数値目標

1) 収支改善に係るもの	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
経常収支比率(%)	101.1	101.0	100.4	101.3	101.5	101.6	101.7
医業収支比率(%)	96.2	96.9	96.4	97.3	96.9	96.5	96.5
2) 経費削減に係るもの	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
人件費の対医業収益比率(%)	53.0	50.8	53.1	53.1	53.1	53.1	53.1
収入に対する委託費の割合(%)	4.9	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.5
3) 収入確保に係るもの	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
1日当たり取扱入院患者数(人)	300.6	304.0	325.5	328.8	328.8	328.8	328.8
1日当たり外来患者数(人)	732.5	772.8	775.0	775.0	775.0	775.0	775.0
病床利用率 (%:対許可病床)	85.9	86.9	93.0	93.9	93.9	93.9	93.9
4) 経営の安定性に 係るもの	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
常勤医師数(人)	112.4	111.9	114.0	114.0	114.0	114.0	114.0
純資産の額 (千円)	1,203,834	1,519,242	1,764,000	1,994,000	2,194,000	2,394,000	2,594,000
現金保有残高 (千円)	95,692	171,204	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000

#### (上記数値目標設定の考え方)

平成25年1月に許可病床を300床から350床へ増床し、当年度以降は常勤全体で増員をしています。結果、平成28年度より全ての許可病床が効率よく運用できる体制が整いつつあるところであり、平成27年度に比べ患者数目標値(在院患者ベースで277.4→297.0人)を大きく伸ばしています。しかしながら、近年の材料費の高騰が大きく影響されること、医師増員については関係機関等と折衝中ですが、現実に

は増員していくことは困難であること、人件費の抑制効果が不透明等々を考慮すると、平成29年度以降は前年度実績を維持していくことが限度と考えています。

(2) 経常収支比率に係る目標設定の考え方

奈良県地域医療構想を注視するとともに、診療報酬改定による収益確保対策を推進し、現状どおりの公設民営による効率化のメリットを最大限に活かした運営を考慮しながら、目標設定を考察しました。

(3) 目標達成に向けた具体的な取組

① 民間的経営手法の導入

開院当初から、指定管理者制度を導入しています。

② 事業規模・事業形態の見直し

平成25年1月に、一般病床300床から350床に増床し、平成28年度に一般病床349床、感染症病床1床に変更しました。平成28年度以降は現体制を継続しています。

③ 経費削減・抑制対策

- ・平成28年度より新人事制度を導入し、これまでの年功序列型給与体系から役職登用者の評価を行う等職階制給与体系へ変更することで、将来にわたる人件費自然増（昇給幅）の抑制（△0.09%）を図っていきます。
- ・市立奈良病院の指定管理者である地域医療振興協会全体のスケールメリットを活かし、医療材料等の共同購入及び委託業務の共同契約を推進しており、引き続き経費の抑制策を実施していきます。

④ 収入増加・確保対策

- ・救急初期診療を更に組織横断的・効率的に運用するためERセンターを設置し、救急診療不能率を減少させることで患者数の確保を図ります。
- ・平成29年4月：増加している脳リハ（廃用リハ含む）件数と摂食機能療法について、言語聴覚士1名を増員することで、算定上限単位の拡大と収益増を図ります。
- ・平成29年4月：新しく設置したIVR研究センターの機能を充実させるため、IVR-CTアンギオシステムを設置し、検査時間の短縮、高度な血管系・非血管系手技に対応させるとともに全身領域の診断・治療を向上させることで、循環器系疾患患者の増加を図ります。
- ・平成30年3月：地域がん診療拠点病院として更なる向上を図るため、最新型の放射線治療機器を導入し、多様ながん症例への治療を可能とするとともに医師確保対策を推進し、がん治療患者の増加を図ります。



⑤ その他

- ・時期未定：専門的にがん治療を推進していくため、各部位に応じた「〇〇がんセンター」を設置し、地域のがん治療の中心的役割を担っていきます。

(4) 本プラン対象期間中の各年度の収支計画等

別紙のとおり

6 再編・ネットワーク化

市立奈良病院の状況として、病棟及び診療棟を建て替え、平成26年7月にフルオープンいたしました。病床利用率は、平成26年度実績が85.6%、平成27年度実績が86.9%となっています。

二次医療又は構想区域内の病院等の配置の現況としては、前記の「4 地域医療構想を踏まえた役割」中の「(1) 地域医療構想を踏まえた市立奈良病院の果たすべき役割」とおりです。

7 点検・評価・公表

① 点検・評価・公表等の体制

点検・評価については、奈良市と指定管理者との協議機関である「市立奈良病院管理運営協議会」及び「市立奈良病院運営市民会議」において毎年行います。

公表等は、例年、市立奈良病院の決算及び事業報告（奈良市病院事業会計及び指定管理者の市立奈良病院事業会計）を「市立奈良病院運営市民会議」に報告し、議事録等をホームページで公表していますので、このプランについても同様の扱いとします。

② 点検・評価の時期

奈良市病院事業会計及び指定管理者の市立奈良病院事業の前年度実績・決算が確定した段階

## 1. 収支計画 (収益的収支)

(単位:百万円、%)

区分	年度								
	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
収	1. 医業収益 a	8,772	9,630	10,105	10,486	10,601	10,601	10,622	10,601
	(1) 料金収入	8,704	9,601	10,064	10,449	10,564	10,564	10,585	10,564
	(2) その他	68	29	41	37	37	37	37	37
	うち他会計負担金	68	29	41	37	37	37	37	37
	2. 医業外収益	678	764	776	824	824	888	948	955
	(1) 他会計負担金・補助金	349	420	375	426	426	426	426	426
入	(2) 国(県)補助金	123	139	134	137	137	137	137	137
	(3) 長期前受金戻入	0	24	67	77	79	143	203	210
	(4) その他	206	181	200	184	182	182	182	182
	経常収益(A)	9,450	10,394	10,881	11,310	11,425	11,489	11,570	11,556
	1. 医業費用 b	8,978	10,015	10,432	10,880	10,898	10,935	11,003	10,985
	支	(1) 職員給与費 c	4,633	5,107	5,133	5,569	5,625	5,626	5,637
(2) 材料費		2,290	2,592	2,816	2,756	2,786	2,786	2,791	2,786
(3) 経費		455	519	431	455	491	490	491	490
(4) 減価償却費		763	749	935	936	852	819	818	928
(5) その他		837	1,048	1,117	1,164	1,144	1,214	1,266	1,155
2. 医業外費用		143	262	342	385	384	384	383	383
出	(1) 支払利息	84	81	69	60	59	59	58	58
	(2) その他	59	181	273	325	325	325	325	325
	経常費用(B)	9,121	10,277	10,774	11,265	11,282	11,319	11,386	11,368
	経常損益(A)-(B) (C)	329	116	107	45	143	170	184	188
	特別損益								
	1. 特別利益(D)	49	0	41	0	0	0	14	14
2. 特別損失(E)	203	372	65	0	0	0	0	0	
特別損益(D)-(E) (F)	▲154	▲372	▲24	0	0	0	14	14	
純損益(C)+(F)	175	▲256	83	45	143	170	198	202	
累積欠損金(G)	—	—	—	—	—	—	—	—	
不良債務	流動資産(ア)	1,813	2,201	2,392	2,438	2,440	2,442	2,444	2,446
	流動負債(イ)	1,649	1,741	1,813	1,860	1,928	1,998	1,998	1,999
	うち一時借入金	0	0	0	0	0	0	0	0
	翌年度繰越財源(ウ)	44	0	0	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入又は未発行の額	0	0	0	0	0	0	0	0
	差引不良債務(オ) [(イ)-(エ)] - [(ア)-(ウ)]	▲120	▲460	▲579	▲578	▲512	▲444	▲446	▲447
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	103.6	101.1	101.0	100.4	101.3	101.5	101.6	101.7	
不良債務比率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$	▲1.4	▲4.8	▲5.7	▲5.5	▲4.8	▲4.2	▲4.2	▲4.2	
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	97.7	96.2	96.9	96.4	97.3	96.9	96.5	96.5	
職員給与費対医業収益比率 $\frac{c}{a} \times 100$	52.8	53.0	50.8	53.1	53.1	53.1	53.1	53.1	
地方財政法施行令第15条第1項により算定した資金の不足額 (H)	▲120	▲507	▲609	▲617	▲619	▲621	▲623	▲625	
資金不足比率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	▲1.4	▲5.3	▲6.0	▲5.9	▲5.8	▲5.9	▲5.9	▲5.9	
病床利用率	71.1	78.3	79.3	89.7	90.6	90.6	90.6	90.6	

(注)計画は、奈良市病院事業会計と指定管理者における市立奈良病院の公益法人会計を合算したものである。

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
収 入	1. 企業債	2,121	857	0	0	0	0	0	0
	2. 他会計出資金	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 他会計負担金	25	26	26	6	12	30	46	46
	4. 他会計借入金	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 他会計補助金	0	1	2	2	2	2	2	2
	6. 国(県)補助金	0	0	0	0	0	0	0	0
	7. その他		16	18	15	26	77	131	131
	収入計(a)	2,146	900	46	23	40	109	179	179
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額(b)	44	0	0	0	0	0	0	0
	前年度許可債で当年度借入分(c)	0	0	0	0	0	0	0	0
純計(a)-(b)+(c)(A)	2,102	900	46	23	40	109	179	179	
支 出	1. 建設改良費	3,829	903	2	2	2	2	2	2
	2. 企業債償還金	38	42	44	21	38	107	177	177
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. その他	0	0	0	0	0	0	0	0
支出計(B)	3,867	945	46	23	40	109	179	179	
差引不足額(B)-(A)(C)	1,765	45	0	0	0	0	0	0	
補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	13	1	0	0	0	0	0	0
	2. 利益剰余金処分類	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 繰越工事資金	1,752	44	0	0	0	0	0	0
	4. その他	0	0	0	0	0	0	0	0
計(D)	1,765	45	0	0	0	0	0	0	
補てん財源不足額(C)-(D)(E)	0	0	0	0	0	0	0	0	
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額(F)	0	0	0	0	0	0	0	0	
実質財源不足額(E)-(F)	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注)計画は、奈良市病院事業会計と指定管理者における市立奈良病院の公益法人会計を合算したものである。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
収益的収支	( 460) 466	( 442) 449	( 60) 416	( 104) 463	( 104) 463	( 104) 463	( 104) 463	( 104) 463
資本的収支	( 6) 25	( 27) 27	( 5) 28	( 2) 8	( 2) 14	( 2) 32	( 2) 48	( 2) 48
合計	( 466) 491	( 469) 476	( 65) 444	( 106) 471	( 106) 477	( 106) 495	( 106) 511	( 106) 511

(注)

1 ( )内はうち基準外繰入金額を記入。

2 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務副大臣通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいう。